

## おくすり Q&A

新しいコレステロール治療薬があると聞きました。教えてください。

2025年11月に「ネクセトール®錠」という新しい作用のコレステロール治療薬が発売されました。現在は、服用されている方はまだ少ないかもしれません。今回は、ネクセトール®錠についてご紹介します。

### Q. ネクセトール®錠は何の薬？

A. 高コレステロール血症および家族性高コレステロール血症の治療薬です。比較的新しい治療薬で、日本では2025年に発売されました。従来の治療で十分な効果が得られない方や、副作用で治療継続が難しい方への新たな選択肢として注目されています。



### Q. ネクセトール®錠の作用の仕方を教えてください。

A. ネクセトール®錠は、コレステロール合成の上流に作用します。肝臓において、クエン酸からアセチル CoA をつくる酵素 (ACL) を阻害することで、コレステロールの合成を抑えます。その結果、肝臓による血液中の LDL コレステロールの取り込みが進み、血液中の LDL コレステロールが低下します。

### Q. 他の脂質異常症の薬と何が違うのですか？

A. スタチン系 (例：アトルバスタチン、ロスバスタチンなど) はコレステロール合成の下流 (HMG-CoA 還元酵素) を抑えます。フィブラート系 (例：フェノフィブラートなど) は主に中性脂肪を低下させます。エゼチミブは腸でのコレステロール吸収を抑えます。さらに、レパルサ®やレクビオ®などの LDL コレステロールを低下させる注射薬もあります。ネクセトール®錠はこれらと異なる段階に作用する新しいタイプの薬で、同時に処方されることもあります。

### Q. 飲み方を教えてください。

A. 通常は1日1回服用します。処方どおり毎日同じ時間に飲むことが大切です。

### Q. 副作用はありますか？

A. 尿酸値の上昇や痛風、筋肉痛、肝機能障害などが報告されています。関節の痛みや強い筋肉痛などの症状が現れた場合は、自己判断で服用を中止せず、速やかに医師または薬剤師に相談してください。

脂質異常症の治療は、多くの場合継続が必要です。また、治療の基本は食事や運動などの生活習慣の改善です。薬を服用していても、生活習慣が整っていないと十分な効果が得られないこともあります。主治医と相談しながら治療を続け、食事療法・運動療法もあわせて継続していきましょう。

執筆薬剤師 藤井 千文

# わたしの健康とくすり

第364号



## 今月の内容

- ・疾患シリーズ アトピー性皮膚炎とは (最終回) ~薬と上手につきあうために~
- ・ちょっとお耳を…… プロバイオティクスって何ですか？
- ・おくすり Q & A 新しいコレステロール治療薬があると聞きました。教えてください。

2026年5月発行

発行者 八王子薬剤センター 橘 隆二  
東京都八王子市館町 1097 電話 042-666-0931

協力 八王子薬剤師会

## 疾患シリーズ アトピー性皮膚炎とは（最終回） ～薬と上手につきあうために～

これまでの連載では、アトピー性皮膚炎の治療として、ステロイド外用薬、生物学的製剤、そしてJAK阻害薬や新しい外用薬について紹介してきました。現在のアトピー性皮膚炎治療は、「症状の重さ」や「生活への影響」に応じて、複数の選択肢の中から適切な治療を組み合わせていく時代に入っています。

まず基本となるのは**外用療法**です。ステロイド外用薬は炎症を抑える中心的な治療であり、正しく使えば高い効果が期待できます。近年は、ステロイド以外にもタクロリムス軟膏やJAK阻害作用をもつ新規外用薬などが登場し、部位や症状に応じた使い分けが可能になりました。「強い薬だから避ける」のではなく、「必要なときに適切に使う」ことが大切です。

外用療法だけでは十分に症状が抑えられない場合には、全身に作用する治療が検討されます。**生物学的製剤**は注射によって特定の炎症物質を抑え、症状の安定を目指す治療です。一方、**JAK阻害薬**は内服薬として炎症のシグナル伝達を抑えることで、かゆみや皮疹の改善が期待されます。いずれも、医師の管理のもとで安全性に配慮しながら使用されます。

大切なのは、「どの治療が一番優れているか」ではなく、「その人の生活や症状に合っているか」という視点です。仕事や学校、通院のしやすさ、塗り薬や注射への抵抗感なども、治療選択において重要な要素になります。

また、治療は薬だけで完結するものではありません。スキンケアによる皮膚バリアの維持、悪化因子への対策、そして困ったときにすぐ相談できる環境が、症状の安定につながります。薬局では、外用薬の塗り方や量、飲み薬の注意点などを確認し、安心して治療を続けられるようサポートしています。

アトピー性皮膚炎は、長く付き合っていく病気です。治療の選択肢が増えた今こそ、一人で悩まず、医師や薬剤師と相談しながら、自分に合った治療を見つけていきましょう。



東京薬科大学 薬学部 総合学修・教育センター 杉山 健太郎

## ちょっとお耳を…… プロバイオティクスって何ですか？

Q. 買ったヨーグルトに**プロバイオティクス**入りヨーグルトと記載がありました。**プロバイオティクス**って何ですか？

A. 「適切な量を摂取した際に宿主の健康に有益な効果をもたらす生きた微生物」と定義されています。代表的なものは乳酸菌やビフィズス菌で、発酵食品であるキムチや納豆、ヨーグルトに多く含まれています。また調味料の味噌や酢なども**プロバイオティクス**にあたります。ただしすべての乳酸菌やビフィズス菌が該当するわけではなく、一定の条件を満たしたものが**プロバイオティクス**となります。

Q. どんな条件を満たす必要があるのですか？

- A. 通常以下の条件が求められます。
- ①安全性が十分に保証されていること
  - ②もともと腸内フローラ（腸内細菌）の一員であること
  - ③胃液や胆汁に耐えて腸内に到達できること
  - ④腸内に付着し、増殖できること
  - ⑤食品の形態を保ち、有効な菌数が維持されていること
  - ⑥安価で容易に取り扱えること



Q. どんな効果を発揮するのですか？

A. 菌により効果は異なりますが、腸内細菌のバランスを整えることで便秘および下痢症の改善効果、免疫機能改善によるアレルギー抑制効果等があります。骨粗鬆症や、動脈硬化に対する予防効果も報告されています。

Q. より効果的に摂取する方法はありますか？

A. 単体で摂取するよりも相乗効果を狙える**シンバイオティクス**がお勧めです。**シンバイオティクス**とは**プロバイオティクス**と**プレバイオティクス**の二成分を組み合わせ取り入れることをさします。

**プロバイオティクス**に似た響きの**プレバイオティクス**は、菌そのものをさすのではなく、「腸内細菌のエサとなり善玉菌の増殖を助ける食品成分」をさします。オリゴ糖を含む果物・野菜や、食物繊維に分類される難消化性デキストリン等が該当します。

★ 普段の生活に**シンバイオティクス**を取り入れてみましょう！★

- ①ヨーグルト（**プロバイオティクス**）×リンゴ・バナナ（**プレバイオティクス**）でフルーツヨーグルト
- ②味噌（**プロバイオティクス**）×里芋・人参・ネギ（**プレバイオティクス**）で野菜たっぷりみそ汁

少しの工夫で**シンバイオティクス**を気軽に生活に取り込むことができます！是非試してみてください。

執筆薬剤師 林 佑季